

団体インタビュー調査結果

調査概要

- ・総合計画の各分野について、個別の団体や関係する団体を対象として、インタビュー調査を実施した。
- ・ヒアリング項目としては、今後10年間の津島市の主要課題、求められるまちづくりの取組、行政等と協働で取り組んでいきたい事業・活動内容を中心として意見をもらった。

ヒアリング対象団体

分野	ヒアリング候補先	実施日
産業・観光交流 中心市街地	<ul style="list-style-type: none"> ●あいち海部農業協同組合 ●海部東農業協同組合 ●津島商工会議所 ●津島市観光協会 ●NPOまちづくり津島 	7/23 7/31 7/23 8/8 8/9
	<ul style="list-style-type: none"> ●つしま歴史・文化まちづくり提案事業採択団体 <ul style="list-style-type: none"> ・津島ガイドボランティア ・わかプロジェクト ・津島おもてなしコンシェルジュ ・津島の宝物ひろめ隊 ・津島紡町実行委員会 	6/15
健康・福祉・医療	<ul style="list-style-type: none"> ●津島市社会福祉協議会 ●津島市シルバー人材センター ●津島市スポーツ協会 ●健康21策定委員 ●元気でいよう会 ●縁側カフェ「えん」(運営委員会) 	7/23 7/31 7/31 7/30 7/11 7/11
	<ul style="list-style-type: none"> ●障がい者関連団体 (12団体：まとめ表参照) 	※津島市障がい者計画 等策定時のヒアリン グ結果を活用 H29年9/8～10/13
子育て・教育	<ul style="list-style-type: none"> ●さくらサークル ●子育てサークル ●津島市地域学校協働支援本部 	6/19 6/28 7/17
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティ推進連絡協議会(8地区) 	6/28

津島市総合計画策定に関する

団体グループインタビュー調査 次第

1. あいさつ・趣旨説明
2. 組織・事業概要のご紹介
3. 意見聴取

テーマ①：今後10年間の津島市の主要課題、求められるまちづくりの取組
 テーマ②：今後、行政等と協働で取り組んでいきたい事業・活動内容

産業・観光交流・中心市街地

団体名	主要な取組み・課題	今後の方向性
<p>あいち海部農業協同組合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「人・農地プラン」を立ち上げて中間管理機構により農地の集約を進めていく必要があるが、市内の水田は規模が小さいことなどから集約化が難しい。 ・生産緑地制度の期限を2020年に迎える農地が多いため、その対策についても課題である。 ・後継者の育成が大きな課題となっている。 ・産直会員は、当JAの直売場であるグリーンセンターに出品する産品を生産しており、農業塾を受講した人から確保している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域農業ビジョン」では、食料の安定供給、豊かで活力ある地域社会、経営基盤の一層の強化を図り、地域農業の持続的な発展を目指している。 ・農業や農産物のPRについて市と連携して推進する必要がある。
<p>海部東農業協同組合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年ごとのビジョンを作り、経営を行っている。 ・農地及び農家の減少が進んでいる。 ・一般の方にも準会員として貯金や保険などのサービスを利用してもらい、応援してもらっている。 ・一般の方もグリーンセンターで安価に米や野菜などを購入できる。 ・国からの改革の求めに応じて、四半期ごとに事業内容を評価し報告している。 ・小学生向けの「子ども農協組合」で、米作り体験を行っている。 ・大人向けの貸農園事業も実施。 ・市とJAのトップによる「農政懇談会」を年1回実施し、現状と今後の方向性を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用排水施設をしっかりと整備するなどして農地をしっかりと管理して、住宅と共存共栄していきたい。 ・地域が潤うようなイベントなどを通じて、コミュニティの永続にも貢献したい。 ・津島市とJAが信頼関係を持って事業を連携して実施していくことが産業振興の面においても大事である。 ・適材適所で効率的に住民サービスを持続・発展させてほしい。
<p>津島商工会議所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次代の産業の種を見出すことはできなかった。 ・製造業の雇用への波及は大きいため誘致を継続していく必要がある。市内の製造業を引き留めることも重要である。 ・天王通りにキッチンリエゾンが開設されたが、新しい取り組みは天王通りにまとまっていない。 ・創業セミナー等は女性の参加が増えた。セミナーがきっかけとなり、空き店舗を活用してもらえるのであれば効果が高い。 ・創業のための環境を整えて、支援を考えていくことは、産業振興にとって重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の住宅地は相対的に安いと、バリアフリー、お寺、茶文化、シルバー産業、高齢者向け医療を充実して人口を誘導するアイデアはいかがか。 ・駅前を整備を早期に進めることや、天王通りを参道として整えるアイデアもあるのでは。 ・広域的な連携を進めて、歴史、文化などの資源を増やしていく。

津島市観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・藤まつりは江南市、羽島市と連携してPRしている。 ・広域で連携してのPRやいろいろな取り組みが年々大型観光バスでの来客が増えている。 ・海部7市町と連携して観光PRをしている。 ・平成17年からの観光のアクションプランの内容を検証する必要がある。 ・歴史や祭りが大切だと言われるが、一方で、「祭りの笛がうるさい」といったクレームも来るようになっている。市民対応が必要である。 ・観光交流センターは民間が見放したものを手に入れた。採算が見込めるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京の江東区、台東区などつながり、観光を糸口にいろいろな交流を図り、最終的には防災協定といった協力体制を作っていきたい。 ・食やスイーツ、地場産品などを丁寧に、付加価値をつけながら作っていくことが重要である。 ・伝統を丁寧に仕込んでPRする必要がある。 ・おもてなし、くつろぎ、癒しが重要である。 ・無駄なこと採算が見込めないことはしない方がよい。 ・天王川公園は東京大学の本多清六が設計したものである。設計には思想に基づいて行われている。その思想や歴史を活かしながら、集客できる、事業効果のあるものを作っていきたい。
NPOまちづくり津島	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの数が減っており、地域のコミュニティを維持していくのも限界になってきている。 ・次代を担うひとづくりのためには、キャパシティを広げないと人材が確保できない。あま市や愛西市と協力して広域的に人材を確保する必要がある。 ・企業誘致に関して、津島市は海拔ゼロメートル地域なので誘致は難しい。 ・ふるさと納税の件数が増えている。市内で色々なことに取り組んでいる人がいるので、そういった素材をうまく活用する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光振興は歴史文化ゾーンの基盤整備が進み、スタートラインに立った状況。 ・文化を継承していくため、ハード面は整ってきたので、ソフト面の充実を目指すべき。 ・女性が活躍できる仕組みを整え、活動しようとしたところに支援をしてあげられるとよい。 ・核になるようなキーパーソンを育てることが重要。身近に活動している人がいれば、その姿をみた子どもも育っていく。 ・新しい人がどんどん来てくれることがまち全体の活力につながる。
つしま歴史・文化まちづくり提案事業採択団体	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減による税収減少と街全体の活力低下を食い止め上昇に転じること、人を呼び込み、人を留める必要がある。 ・税収、雇用機会を確保するために、製造業等産業の獲得が必要である。 ・消費、街中の楽しみ創出による魅力づくりのため、小売、飲食、宿泊業の積極的な誘致が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中心部に若い人が住みお金が回るようにソフトの仕掛けが必要である。中心部は車がなくても歩いて便利な生活ができるように店を誘導する。 ・津島はおもしろいと思うことができる機会づくり、情報発信が必要である。中心部に仕事づくりを行う。 ・イベント開催には市の施設だけでなく、古民家や空き家を活用する。 ・名鉄津島駅に案内やポスターを掲示できるように、市が名鉄に要請してほしい。 ・子育て、IT系、シリコンバレー的なコンセプト、津島に来れば何と

		<p>かなるようなまちを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民のシビックプライドへの理解、愛され、ブランディングされた施策を決めるための準備を進める。
--	--	--

健康・福祉・医療

団体名	主要な取組み・課題	今後の方向性
津島市社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会の職員をコミュニティソーシャルワーカーとして養成している。社会福祉協議会会員の拡大も課題である。 ・人口減少が進む中では、若い世代に対する取組みにもう少し力を入れていくべきであると考える。 ・地区社協を6地区で立ち上げたが、防災を含めた協力体制をうまくつくっていくことが課題である。 ・地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定した際の地区懇談会は、継続的に実施していく方針である。 ・障がい者の高齢化への対応が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化、人口減少が進むと限られた人数で仲間意識を持って、隣組のようなコミュニケーションを持つ方向が必要である。 ・総合計画については、個別計画とうまく連動していくことを望む。
津島市シルバー人材センター	<ul style="list-style-type: none"> ・会員が増えず高齢化が進んでいるため、人手不足に陥っている。 ・掃除などの家事支援の引き受けても減っている。高齢化で体力的な仕事にも限界がある。 ・要請に応えられずに断るケースもあり、請負業務の件数も減少傾向にある。 ・ニーズと会員のやりたい仕事がミスマッチの状況が生まれている。 ・魅力ある仕事づくりが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、請負ではなく派遣(受入先の従業員扱い)の割合が増加し、企業における軽微な作業が増えていく。 ・経験やノウハウを活かして、生きがいを得ながら地域貢献的に働く高齢者の受皿としての意義をアピールしていきたい。 ・女性やホワイトカラー向けなどの魅力的な仕事を増やして、イメージアップを図りたい。
津島市スポーツ協会	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和21年に設立し、平成26年に市から独立して運営している。 ・市から委託を受けてスポーツ振興の事業を実施している。スポーツ大会や駅伝大会、体育大会、育成事業など。 ・スポーツフェスティバルは、多世代が身近でスポーツと触れあうことができる機会としてとてもいい事業である。 ・少子化や子どものスポーツ離れにより、スポーツ人口が減少。スポーツ団体数も減っている。 ・指導者研修や講演会なども行っているが、実業団スポーツも少なく、指導者が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに興味を持ってもらうような体験の機会を増やすことが求められる。 ・将来の津島を担う子ども達の教育に力を入れるべきである。 ・近年、高齢者でボーリングが盛ん。生涯スポーツを通じて健康長寿のまちをつくることが求められる。 ・公共施設全体の統廃合を進めながら、スポーツ施設の整備も計画的に進めていく必要がある。 ・ランニングやウォーキングできる場所を整備していくべき。 ・コミュニティの地域力の高さを活かして、協働の地域づくりをさらに進めていく必要がある。

<p>健康 21 策定委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病大学を経て、糖尿病やそれに伴う合併症を減らすためのPRを行うボランティアを行っている。 ・食生活改善推進員は17人のメンバーで、月1回定例会を開催している。 ・食生活改善推進員はボランティアでやりがいもあるが人数を増やすことが難しい。 ・津島市健康づくりリーダーとして、市内各所で体操教室を開催している。 ・健康づくりリーダーは大府市で研修を受けるが、参加する人がいない。 ・社協が事務局をして、有償ボランティアで高齢者の家事、買い物、ゴミ出しの支援をしている。依頼は多いがヘルパーが少ない。 ・活動をするために借りられる施設が少ない。 ・市全体から参加する人を対象にすると集まりやすい施設がない。 ・参加者の高齢者が来にくくなっている。 ・高齢者についていうと、免許証の自主返納が言われているが、出かけるため、活動に参加するための足がない。 ・バス停に屋根があるとよい。 ・若い人の参加が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する情報を得る場が増えて、生活改善につながっていくとよい。 ・企業とも協力して地域の活性化ができるとうい。 ・活動をするのに、行政との協働はできている。ボランティアの体制からすると、活動量などは今の状態がベストである。 ・巡回バスはよく利用されている。もっと充実してほしい。
<p>元気でいよう会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくり推進委員養成講座の卒業生で立ち上げた。メンバーは30人弱 ・公園内のウォーキングを年5回実施している。出前講座として各地区の老人サロンなどに訪問し、歌、折り紙、ストレッチなどを行っている。 ・体を動かすなどのプラスの習慣は必要だが、継続するためには仲間づくりが重要。 ・災害時に市民に対して情報を伝える手段として公園などにラジオを流せるスピーカーを設置しラジオ体操を流すようにしてはどうか。 ・次の世代に活動を担ってもらいたいと思うが、最近では70歳まで働く時代になってきており60代の人が集まらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の10年を考えた場合、キーワードが決まれば何をやるのかが決まってくる。 ・予防に力を入れることを考えると、運動を習慣づけることが良い。 ・マッキーストレッチもあり、つし丸体操も含めて材料があるので、あとは仕掛け次第だと思う。 ・何かをやるときは、収入をどう確保するか、持続させるためのビジネスモデルが必要である。 ・障がい者が活躍できる社会を考えた場合、環境系の仕事、たとえば空き瓶の仕分けなどは障がい者が得意な仕事である。 ・老人でも簡単に使うことができるアプリも比較的簡単に作ることができるので、そういったものも活用していきたい。

<p>縁側カフェ「えん」(運営委員会)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェはまちなか再生の交付金を活用して改修して開設した。 ・自主運営を行っているが、場所を維持するための活動を行っている状況に近い。 ・地域の一人暮らしの高齢者が多いための集いの場のほか、子ども食堂や障がい者の集い、中高生のイベント、子どもの遊び場など、幅広いグループによる利用を受け入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育は1校区・1か所となっており、東小学校区では児童数が多いため、利用している部屋が子どもで混雑している。 ・子どもが地域で気軽に行くことができ、知り合いの人が居るような場があるのが望ましい。 ・津島駅は、中心の駅として整備ができないものか。 ・中央公民館がなくなるなど、公共施設の廃止が進んでいるが、もう少し残せないものか。財源がない中で、各地域が身近な施設の運営を工夫する方向があってもよい。 ・天王祭りの際に市がお金を得ることができるしくみを企業とうまく協力してつくるべきである。
<p>津島市障がい者計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画策定時のヒアリング調査結果(平成29年実施) ※以下に主な結果を示す。</p>		
<p>点訳の点読虫(テントウムシ)*視覚障がい者支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・点訳活動及びその他援助活動と地域福祉の向上と、ボランティアの輪を広げる。 ・講習会を開き会員募集しても入会してもらえない。 ・個人情報に壁になり、津島市の視覚障がい者の情報が入ってこないため、支援ができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いかに会員を集めるか。視覚障がい者を開拓する。 ・点字のPR、会員の募集等、行政の協力を得たい。福祉課から案内をしてほしい。 ・市から視覚障がい者へ郵送する書類(封筒の宛名も)等は、点訳したものを要望。 ・点字ブロックがない箇所、道がでこぼこの箇所がある。駅員の対応が不十分な場合がある。
<p>津島市心身障害児者保護者連絡協議会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の社会福祉事業の推進、障がい者の教育・職業・医療等に関する施策の向上発信、会員相互の交流と親睦を深め、障がい者の自立発達に必要な事業を行う。 ・新しい会員が入らないため会員が高齢化するとともに、会員数が減少している。 ・会員の年齢差による世代間のギャップがある。 ・イベントの参加に協力してくれる会員が少ない。会があること自体あまり知られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新会員の募集のため、会の活動をPRする。NPO心身協つしまで行っている「ここね」の運営を支えるため資金活動を行う。 ・防災訓練等にも参加して、存在を知ってもらえる機会にする。特に地域でのつながり、協力を深める。 ・車椅子や三輪自転車で移動すると道路の水はけのための傾斜によってハンドルをとられる。 ・親亡き後の障がい者の意思を尊重する施策をお願いしたい。

<p>OH P つしま</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者総合支援法の意味疎通支援事業の要約筆記活動を通して、聴覚障がい者・難聴者の自立・社会参加を支援し、要約筆記の普及に努める。 ・市民病院筆記通訳ボランティア、講演会、大会等での通訳、市内学校福祉教育講師、福祉実践教室などを実施。 ・聴覚障がい者、難聴者を支援するサークルとして周知されていないため、活動場所が少ない。 ・要約筆記をつけている行事自体が少ないため、知ってもらう機会が増えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「要約筆記」に対する周知と理解を深めてもらえるようアピールする。 ・聴覚障がい者を支援する手段として、手話だけではなく「要約筆記」という方法もあることを広め、個人派遣の利用も促してほしい。 ・「要約筆記」に対する周知と理解を深めもらえることの支援、個人派遣の利用も促してほしい。
<p>海部津島聴覚障害者協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海部津島地区の聴覚障がい者が力を合わせて、障がいの有無を問わず誰もが安心して暮らせる社会の実現をめざして活動する。 ・会員の高齢化。市民とのコミュニケーションが問題（手話通訳者設置なし）。 ・手話ができる人というのはとても少ないため、何か災害が起きたときなどはとても困る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手話言語条例の制定に向けて、学習の取組を行う。市民への手話普及を図る。防災訓練、近所との付き合いを促す活動を行う。 ・防災対策（聴覚障がい者への情報保障）を講じていただきたい。手話通訳者の設置を要望 ・手話は言語であるという認知が行き届いていない。みんながコミュニケーションを取れるようになることが手話通訳設置の目的の1つ。
<p>海部津島手話サークルかたくりの会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手話学習及びレクリエーション等を通じて、ろう者と健常者の交流を深め、ろう者問題に取り組む。 ・若年層の人数不足。ほとんどが主婦の方。 ・聴覚障がいという分かりにくいバリアはなかなか理解されない。福祉実践教室やサークルの開催がとても大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手話が市民へ少しでも普及していくよう学校等へ手話講座の開講を推奨する。 ・公的施設には、手話のできる職員又は通訳を常駐してほしい。特に病院や消防署。 ・お店でのアナウンスが聞こえないため配慮が必要。レジでの対応も分かりにくく、筆談などの目で見える情報がほしい。
<p>海部津島手話サークルあゆみ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手話サークルを通してろう者と健聴者が共に歩むことを前提に手話学習やコミュニケーション支援、ろう者問題解決等を目的に活動。 ・ろう者の方が市民生活をする上で安心して情報を共有し、円滑なコミュニケーションをとるには未だ不十分である。 ・どこでも手話で情報交換ができるように体制を整えられるようになることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手話のできる人を増やす。手話サークルへの入会を促進する。手話を通して市民活動への参加を推進する。 ・ボランティア連絡協議会に15団体入っているが、情報を共有できるようやり取りしている。 ・緊急メールの登録は消防署の方が講習に来てくれ登録することができたが、高齢者などスマートフォンを持っていない人も多く、情報提供の仕方が課題である。

津島市身体障害者福祉会	<ul style="list-style-type: none"> ・身体障がい者の親睦、福祉まつりのバザーに参加を実施している。 ・愛知県身体障害者福祉団体連合会北尾張支部で会合参加・研修旅行・カラオケに参加している。 ・会員数を増やしたいが、対象者の情報の入手先がない。 ・会員の高齢化。 ・会費だけでは賄いきれず、財政面で個人的な負担がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に対する市からの補助金がないため、活動は会員の実費負担となり、活動するにも、計画が立てられない。 ・活動に対する財政的な支援が欲しい。 ・障がい当事者との話し合いの場をもってほしい。直接、個人個人の具体的な意見を聞いてほしい。
精神保健福祉ボランティアグループ 風車の会	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障がい者が社会の中で正しく理解され、地域で充実した生活を送ることができるよう支援する。 ・心の居場所「はっぴーーむ・つしま」運営（市委託）、精神障がい者ボランティア養成講座講師など。 ・会員の高齢化・会員数の減少が問題。 ・お金以前にスタッフの数が足りないため、活動範囲を広げられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校・ひきこもり座談会などへ参加する。 ・NPOやボランティア団体が単独で活動するのではなく、行政による支援団体のネットワークの構築と役割分担の明確化、支援体制の強化を要望。 ・市による精神保健福祉ボランティア養成講座の実施と人材養成、当事者や不登校児の居場所・働ける場所・気軽に行ける相談室等を要望。
朗読ボランティア 声のたより	<ul style="list-style-type: none"> ・市政のひろば等の音声訳が主たる活動。視覚障がい者等に対する津島市の社会福祉事業等に協力している。 ・音声訳テープの作成と配布、朗読に関する技術習得のための研修会などを実施。 ・会員募集の難しさ、会員の高齢化、CD化移行のための機械確保等の問題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がい者への周知やCD化を進めていく。 ・当事者への周知や、文書を読めない家庭に対してきちんと配慮をしてほしい。 ・活動について周知してほしい。
キャッツ・ハンド	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障がい、身体障がいのある方の休日余暇活動を開催、障害者施設でのボランティア活動を行っている。 ・文化教室やスポーツ教室の開催（折り紙、ちぎり絵、バドミントンなど）、各イベントの手伝いなどを実施している。 ・会員の高齢化により活動を縮小せざるを得ないこと、若い会員の入会がないことが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外での教室開催を考え、地域の人々が積極的に参加できるように呼びかける。防災訓練などは、積極的に参加を促してほしい。 ・障がい関係のイベントや広報活動は、地域に根づくまで継続してほしい。 ・道路、駅前、コミュニティをしっかりと整備して、誰にとっても住みやすいまちにしてほしい。

くわがたの会	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高生や一般の人達に目が見えないこと、盲導犬についても知ってもらおう。 ・津島、海部地域の小・中・高において福祉教育の場でのアイマスク体験、盲導犬についての理解、講座、(福祉実践教室)などを実施。 ・目が不自由な事や盲導犬について、一般の人達に知って理解してもらおうような活動をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域メディアに取り上げてもらって広く一般の人達に知ってもらおう。 ・スーパーや各種団体、公的機関での講座を開きたい。 ・大人の方達の意識を上げる活動もしていきたい。 ・行政に、ボランティアの活動の場を広げる繋ぎ役になってほしい。小さいボランティア団体だけでは難しいことがある。
愛知県重度障害者団体連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人ない人に限らず、誰もが住みやすい街づくりを目指して活動している。 ・まちづくり啓発活動、愛知県人にやさしい街づくり連続講座受託、インクルーシブ教育の普及、ピアカウンセリング講座などを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・名古屋駅再開発のバリアフリー化、誰もが利用できる環境整備、インクルーシブ教育、障がい当事者のエンパワーメント(ピアカウンセリング)などを進める。 ・環境整備や建築物を建てる際、障がい当事者の委員を入れて、意見交換をしたうえで進めてほしい。 ・尾張津島天王まつりなどに障がい当事者の参加しやすい環境整備をしてほしい。

子育て・教育

団体名	主要な取組み・課題	今後の方向性
さくらサークル	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の親子が集まり、様々な情報交換を行っている。 ・市民病院の小児科の医師が不足。 ・子連れで行ける大型商業施設や飲食店などが少ない。また、施設が一般的に古くなっている。 ・支援センターはおもちゃが少ない。 ・子どもと一緒にいける身近な公園が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な医療機関で子どもの病気などを見てもらえる体制の充実を期待する。 ・支援センターで乳幼児が安全に楽しく遊べるような施設・設備の充実を求める。 ・一時預かりの費用を下げしてほしい。 ・永和駅などにエレベータを設置してバリアフリー化すべき。 ・子どもが安全に遊べる公園の整備。 ・父親が親子で子育てに参画できる機会の提供が大事。 ・妊娠時の検診の補助を増額してほしい。
子育てサークル	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回テーマを決めて勉強会を行っている。今回は防災グッズに関する勉強会を行う。 ・雨の日や暑い日に遊べる場所が少ない。 ・市民病院で出産できないのは問題ではないか。 ・子育て支援センターや子育て広場などは月曜休みが多い。 ・保育園や幼稚園は、数は多いが特色 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家や既存施設を活用して身近な場所に子育てを相談できる場所や学童などの機能がほしい。 ・子供服などの店舗を誘致してほしい。 ・食の安全に配慮した給食をお願いしたい。 ・アレルギー対応だけでなく、外国籍の子どもの食事への対応も必要になってくる。

	<p>のある園が少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童館、保育園、幼稚園など、子育て関連の施設が老朽化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光以上に教育に力を入れるべき。5～6年生は教科担任制にするなどの独自性を出したらどうか。
津島市地域学校協働支援本部	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年ごろに荒れていた中学校があり、学校、地域が改善してきた。 ・学校教育の世界のみでは子どもを育てるのは限界である。 ・地域学校協働本部は、各小中学校で地域と一緒に進めてきた活動実績を生かしてコミュニティスクール（学校運営協議会制度）を広げていくことができる。コミュニティスクールは今年度までに2校、2020年までに12小中学校全てで開設することを目指している。 ・コミュニティの活動へは子育て世代の親が参加しにくい。社会福祉協議会、市民協働課、コミュニティ、学校が協働で多くの世代や子ども達が参加することができる催しを進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を核とした地域づくりを進めて、地域と先生が程良い関係を築きながら、小中学生の親の世代とコミュニティの中心的な役割を担う多様な世代のつながりをつくるのが望ましい。 ・市では防災訓練、少子高齢化対策、働き方改革、放課後児童教室、学童保育、生涯学習、外国人市民との共生などいろいろな課題・取組みを行っているが、こうした取組みを継続していくためには、持続可能な人の循環が必要である。

コミュニティ

団体名	主要な取組み・課題	今後の方向性
コミュニティ推進連絡協議会（8地区）	—	<ul style="list-style-type: none"> ・全国に発信できる津島らしい事業をしてほしい ・人の出入りが多いことをもっとたくさんしてほしい。 ・「尾張津島天王祭」がユネスコの無形文化遺産に認定されたが、次の話題がない。 ・津島神社の前の道路は電信柱の地中化してはどうか。天王通りを整備してほしい。 ・道路の幹線、沿線は土地利用規制があり、借地が多く、開発ができない。土地利用規制を見直す。 ・津島駅、青塚駅の駅周辺はゴーストタウンのようであり、整備をしてほしい。 ・人口減対策として市街化区域の拡大を行ってほしい。 ・政治が津島を良くする方向性を一致させて、改新してほしい。 ・他の地域の良いところを吸収してやらなければ、いつまでいっても同じことである。